

授業科目名	基礎看護技術	担当者	前田 和子、山田 かおり 大村 達也、藤田 節江 山本 房代
単位	—		
時間数	212時間	学年	1学年
授業形態	講義・演習	開講時期	前期
授業の到達目標	看護の基本概念を学び、看護の対象である人間を総合的に理解する。看護実践の基盤となる基礎看護技術を理論的に理解し、安全・安楽に提供できる能力を身につける。また看護実践における看護技術提供過程の要素として、看護過程について理解する。		
授業の概要	基礎看護技術について、看護行為は対象者のニーズの充足を目的に行われる。または医師の指示のもと実施する行為もある。看護行為を安全・安楽に行うための基本的な知識・技術・態度について学ぶ。 演習を行うことで安全・安楽な援助技術を習得し、対象に配慮できる技術を身につける。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの技術 2. 看護を安全に実施するための技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全・安楽 2) 姿勢と動作 3) 感染予防 3. 対象者の観察と看護の展開のための技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体および心理・社会的側面の観察 2) 情報収集と記録・報告 3) 看護過程 4. 日常生活援助の援助技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日常生活行動の援助 2) 環境調整の援助 3) 活動の援助 4) 休息の援助 5) 衣生活の援助 6) 清潔の援助 7) 食事と食生活の援助 8) 排泄の援助 5. 診療に伴う援助技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 診療の補助 2) 栄養補給法 3) 導尿 4) 浣腸 5) ストーマケア 6) 罨法 7) 吸入 8) 吸引 9) 褥瘡の予防 10) 創傷の処置・ケア 11) 包帯法 12) 与薬 13) 検査における看護 14) 洗浄 15) 看取りの援助 		
テキスト	新看護学6 基礎看護[2]、新看護学7 基礎看護[3] 医学書院 看護形態機能学ワークブック 看護がみえる vol. 1、vol. 2、vol. 3 メディックメディア		
評価の方法・基準	筆記試験 計3回 ①テスト:筆記試験(50点)+実技テスト(20点×2)+レポート点(10点) ②テスト:筆記試験(70点)+実技テスト(20点)+レポート点(10点) ③テスト:筆記試験(100点)		